

千葉工業大学 中期計画  
(2020 年度～2023 年度)



## 千葉工業大学 中期計画（2020 年度～2023 年度）

千葉工業大学は 1942 年に旧制大学として誕生、設立の趣意書には「広く世界に知識を求める好学心」を備え「世界文化に尽力する人物を養成する」と書かれている。

戦後の混乱から高度経済成長を経て現在の日本は少子高齢化が進み、このままでは国の活力が失われかねない局面にある。今後も日本が国際社会において重要な地位を得て貢献し続けるには、国民一人ひとりが高度で専門性の高い知識や技術を身に付け、高い価値を生み出すことが求められる。そのためには質の高い教育が不可欠である。これは、日本の命運を大学が握ることに他ならず、その中で本学は一定の役割を果たしたいと考えている。

将来にわたって活躍できるグローバルリーダーの輩出を目指して、本学では「世界文化に技術で貢献する」を建学の精神に掲げた。2017 年に 75 周年を迎え、将来に向けて一層の進化を図るにあたり、2020 年度から 2023 年度までの 4 か年を計画期間とする中期計画を策定する。

### 中期計画策定にあたっての基本的な方向性

創立 100 周年に向けて、時代の変化に対応し建学の精神を実現する大学運営を推進する

- ①大きな視野を持ち、困難を克服する力を持つ人材を養成する
- ②師弟が共に学び共に思索し創造するキャンパスを構築する
- ③最先端の教育や研究を通じて本学の先進性を広く世界に発信する
- ④教職協働で将来に向けた課題に取り組み、堅固な財政基盤を構築する

策定にあたっては、以下の 10 分野の大項目と、事後の検証として点検評価を設定した。

- I. 学部教育
- II. 大学院・研究
- III. 学生募集・広報
- IV. キャリア教育・就職支援
- V. グローバル化
- VI. 地域連携
- VII. 設備投資
- VIII. ガバナンス
- IX. 管理運営
- X. 財政

施策を実施する際には、教職員で構成する各委員会や様々な事務部署が横断的に関わることになる。このため、点検評価をするときの取りまとめを担当する主管部署を定めた。また、点検評価の参考として、数値化できる項目には、数値の達成を目指す重要指標と、数値の推移を参考に参考指標を設定した。

# 千葉工業大学 中期計画（2020年度～2023年度） 目次

頁

I. 学部教育.....	7
1. 質の高い教育の実現 .....	7
1) 入学前教育、初年次教育の充実.....	7
2) 多様な教育手法を実践した120分授業の実施 .....	7
3) カリキュラムや授業内容の継続的な検証や見直し .....	7
4) 教養特別科目の充実 .....	7
5) Society5.0に向けた取り組み .....	8
6) 情報教育センターの開設.....	8
7) オープンイノベーションの推進.....	8
2. 主体的に学び、未来に活躍できる教育.....	8
1) 入学初期段階教育プログラムの推進 .....	8
2) アクティブラーニング、PBL型授業の導入.....	8
3) 学修時間を伸ばす動機付け .....	9
3. 正課外教育における成長機会の充実.....	9
1) 学生自治活動支援の充実.....	9
2) 学生寮の教育寮化.....	9
4) 工作センターやクラフトハウスの有効活用、情報通信領域への対応.....	10
5) 長期休暇の有効な活用 .....	10
4. めげずに継続して学修できる教育環境の整備.....	10
1) 退学者の抑制 .....	10
2) 留年しても学習意欲を維持できる仕組みづくり .....	10
3) 授業科目毎の取組み強化.....	10
4) 学生サポートセンターの機能強化.....	11
5. 学修成果の可視化 .....	11
1) 学習意欲、満足度の把握と改善に向けた取組み.....	11
2) ルーブリック評価も含めたディプロマ・サプリメントの構築.....	11
3) 標準年限での卒業を推進させる取組 .....	11

6. 時代の変化を先取りする教育体制の構築 .....	11
1) 120分授業の導入と定着 .....	11
2) 全ての学部学科を検討を含む改組改編 .....	12
II. 大学院・研究 .....	12
1. 大学院進学への促進 .....	12
1) 優秀な学生のモチベーションの向上 .....	12
2. 高度な技術者養成の体制づくり .....	12
1) 教育課程の体系化とその定着 .....	12
2) 副専攻制度の浸透 .....	12
3. 研究センターの中期的な取り組み .....	13
未来ロボット技術研究センター (fuRo) .....	13
惑星探査研究センター (PERC) .....	13
人工知能・ソフトウェア技術研究センター (STAIR Lab) .....	13
国際金融研究センター (GiFr) .....	13
次世代海洋資源研究センター (ORCeNG) .....	13
地球学研究センター (Geo-Cosmo Inst.) .....	13
4. 「研究体制整備に係る計画」の実行 .....	13
1) 多様な人材の活用による研究体制の整備 .....	13
2) 事務局の支援能力強化 .....	14
3) リスクマネジメント体制の構築 .....	14
5. 「産学連携に関する目標・計画」の実行 .....	14
1) 外部資金の獲得 .....	14
2) 論文発表の活性化、質の向上 .....	14
3) 知的財産の創造と活用 .....	14

III. 学生募集・広報.....	15
1. 基礎学力を担保した、高い入学志願者競争力の維持・拡大.....	15
1) 入試志願者数の維持・増加につながる入試制度の確立.....	15
2) 国の方針に合わせた入学者選抜の検討 .....	15
3) ステークホルダーごとの広報活動を展開 .....	15
4) 高大連携を活かした志願者の確保.....	15
2. 高い研究力や教育力を活かしたブランド力の向上 .....	15
1) 研究センターの研究成果を活かしたブランド作り .....	15
2) 創立 80 周年を見据え、ブランディング構築計画に基づいた情報発信.....	15
IV. キャリア教育・就職支援.....	16
1. 質の高い進路の実現.....	16
1) 教職員が連携した就職支援の強化.....	16
2) 優良企業への就職率の向上.....	16
3) 増加する留学生への対応.....	16
2. 雇用される能力（エンプロイアビリティ）の獲得 .....	16
1) 長期休暇も活かしたインターンシップの支援強化 .....	16
2) ジョブ型雇用、通年採用への対応.....	17
V. グローバル化.....	17
1. 世界に貢献する千葉工業大学.....	17
1) 発展途上国や、発展途上国の大学との関係強化.....	17
2) 英語のみで修了可能な教育課程の構築 .....	17
2. 国際社会で物怖じしない日本人の育成.....	17
1) 国際社会で活躍するグローバル人材の育成 .....	17
2) TOEIC の効果検証と授業改善の推進 .....	18
3) グローバルラウンジの充実 .....	18
VI. 地域連携.....	18
1. 地域社会との連携の促進 .....	18

1) 連携協定に基づく活動の活性化.....	18
2) 地域連携協議会の開設 .....	18
<b>VII. 設備投資.....</b>	<b>19</b>
<b>1. 魅力あるキャンパス環境の維持.....</b>	<b>19</b>
1) 教育ニーズに対応した施設への更新 .....	19
2) 長期的な視点に立った改修計画に基づく維持・管理 .....	19
3) 耐震化率の引き上げ.....	19
<b>VIII. ガバナンス.....</b>	<b>19</b>
<b>1. 俊敏な意思決定ができる大学組織の構築とガバナンス改革.....</b>	<b>19</b>
1) 教学マネジメントの構築.....	19
2) ガバナンス・コードの策定 .....	19
<b>IX. 管理運営.....</b>	<b>20</b>
<b>1. 持続可能な職場環境の実現 .....</b>	<b>20</b>
1) 業務のたな卸しと標準化、事務組織の抜本的な見直し.....	20
2) 人事政策の策定 .....	20
<b>2. 大学の適正規模の追求.....</b>	<b>20</b>
1) 組織の簡素化・効率化 .....	20
<b>3. 安心、安全な環境の構築.....</b>	<b>21</b>
1) 情報セキュリティ対策の強化 .....	21
2) BYOD の推進.....	21
3) 災害等への備え .....	21
<b>4. 創立 80 周年 [2022 年 (令和 4 年)] 記念行事.....</b>	<b>21</b>
<b>5. 外部評価の受審.....</b>	<b>21</b>
<b>X. 財政.....</b>	<b>22</b>
<b>1. 自らの軸足で立つ経営.....</b>	<b>22</b>

1) 健全な収支状況の維持 .....	22
2) 100周年に向けた財務基盤の構築.....	22
<b>点検評価 .....</b>	<b>22</b>
1) 理事長・学長による教員や職員への周知.....	22
2) 評価の実施と柔軟な見直し.....	22



## I. 学部教育

### 1. 質の高い教育の実現

#### 1) 入学前教育、初年次教育の充実

推薦系入試による入学予定者に対して、入学準備プログラムをより一層充実させることで、入学後必要となる基礎学力や大学で学ぶ意識の醸成を図る。高校から大学への移行をより円滑に実現するために、建学の精神を深く理解させ、大学で学ぶために必要な知識・技能や態度・思考を学ぶ初年次教育を充実させる。また、ディプロマ・ポリシーで定める観点別の能力を基準として、自身の位置付けを理解し、成長に向けた目標を明確にする「千葉工業大学基礎能力の評価項目」を初年次教育でこれまで以上に活用する。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：1年生の退学率

#### 2) 多様な教育手法を実践した120分授業の実施

2020年4月より今までの90分授業を120分授業に変更する。学生の卒業時の能力向上、質的保証するために授業時間を増やし確実に学生の成長を図る。また授業外の時間を有効に利用し、通常の授業内では学ぶことのできない人間力を成長させる。

これに合わせて授業科目の内容を再点検し、到達目標や身に付けるべき能力を考慮した多様な授業スタイル（グループワーク、ディベート、フィールドワーク等）の導入を図る。

個々の授業科目における到達目標や身に付けるべき能力に応じて、120分の授業時間を活用し、学生の主体的学修を促す。「考える」・「話す」・「行動する」などの多様な学びとそれらを応用して実践する体験を学生にもたらし。

学生は能動的な授業体験が増えると共に、授業期間外（インターンシップ、ボランティア、ソーシャルアクティブラーニング、海外留学等）も含めた主体的な学修に転換を図る。また長期休暇を有効に利用することを大学としても支援する。

- ・ 主管部署：教学センター

#### 3) カリキュラムや授業内容の継続的な検証や見直し

工学部の改組が完成年度を迎えることから、学生が身に付けるべき能力と授業科目の関連性を一層検証し、授業科目の編成及び教育内容を必要に応じて見直す。また、授業のIT化を推進し、全学生に貸与しているタブレット端末のより一層の有効利用を図る。教員の教育力向上を図るため、多様なFD活動をさらに進める。

- ・ 主管部署：教学センター

#### 4) 教養特別科目の充実

スポーツアクティブラーニング、ソーシャルアクティブラーニング、国内インターン、国際インターン、ボランティア等、修得した知識・技術を実践の中でどのように活用するか実体験を通して学び、その手法を身に付ける科目を充実させる。そのため、特別教授等社会の第一線で活躍した人材の登用等により、一層のプログラム開発と単位取得者を

底上げするとともに、学生が将来活躍するために必要な力を身に付けることができる最先端の知見を与える科目を新設・運用する。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：各参加者数、満足度

#### 5) Society5.0に向けた取り組み

Society5.0社会を牽引する能力を身に付けるため、研究センターとも連携して情報・数理・データサイエンス・AI分野を学ぶプログラムを整備・強化する。また教育にICTを授業でも積極的に生かし、校舎間の遠隔授業や反転授業、電子会議システムを利用した社会で活躍する技術者との交流や、サイバー大学とも連携したe-Learning等を推進する。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：遠隔授業の拠点数、開講授業、コンテンツ数、研究センターからの科目抛出数

#### 6) 情報教育センターの開設

情報通信技術の進歩に対応できる人材育成を強化するために、入学時から充実した情報リテラシー教育やプログラミング教育を行うための情報教育センターを開設する。現在の教養教育体制を見直し、教養教育と専門教育を繋ぐ教育を行うため、情報教育センターの開設に当たっては、教職協働で検討し全学的な支援体制を構築する。

- ・ 主管部署：教学センター

#### 7) オープンイノベーションの推進

5 学部17 学科、大学院5 研究科15 専攻といった多彩な専門分野を活かし、複数の学科や専攻の専門を融合したオープンイノベーションを実現する教育を推進する。

- ・ 主管部署：教学センター

## 2. 主体的に学び、未来に活躍できる教育

### 1) 入学初期段階教育プログラムの推進

入学初期段階から、建学の精神を理解し、大学で学ぶ意識や意義を確立し、学習意欲をより一層高めるために初年次教育の強化・充実を行う。科目の構成や学科毎の特色を踏まえた内容の充実など、教職協働により不断の改善を行う。特に将来活躍する日本人に必要な力を付ける英語教育及び大学院教育については、これらの重要性を理解させモチベーションを向上させる。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：全学科の初年次教育で課題解決などを主とするグループワークを展開

### 2) アクティブラーニング、PBL型授業の導入

演習・実験・実習以外の授業科目においても、従来の知識の伝達・注入を中心とした授

業のみならず、授業科目の到達目標や身に付けるべき能力に応じて、能動的学習の活用も必要であり、今後も120分授業を活かす教授法・授業設計に関する研修会や一部教員による公開授業等を推進し、効果のあるアクティブラーニングやPBL型学習の導入を推進する。

- ・主管部署：教学センター

- ・重要指標：アクティブラーニング・PBL授業導入割合50%程度の水準を維持

### 3) 学修時間を伸ばす動機付け

学生の主体的な学修を促すには、単位の実質化に見合った、予習や復習を着実に実施できる環境を整備する必要がある。そのため、現在、大学の把握している学生の学修時間をより一層向上させると共に、学生の学修習慣の定着を図る観点から、ICTの活用も含めた予習・復習、更には反転授業の推進などの取組みを拡大する。

- ・主管部署：教学センター

- ・重要指標：事前事後の学修として週11時間から15時間学ぶ学生の割合を30%以上

## 3. 正課外教育における成長機会の充実

### 1) 学生自治活動支援の充実

自治活動を通じて組織の在り方や他者との関わり方を経験し、成功体験だけでなく失敗から得ることの価値を見出せる人材を育成する。この組織運営の経験が、社会で求められる人間力、実践力を培う場となるよう、教職協働で支援していく。また、学科や学年を問わず切磋琢磨できる部活動への参加者を増やすため、人的資金的対応を強化する。

- ・主管部署：教学センター

- ・参考指標：参加率

### 2) 学生寮の教育寮化

日本全国、世界各地から集まった学生の共同生活を通じて、規律の遵守と異文化を理解し人を思いやる精神を身につけたグローバル社会を生きる学生を育成する。そのために、寮友会執行委員の活動を活性化させ、600人を超える寮生による寮生のための組織の構築を支援する。また、寮行事においては、全寮生が目的や意義を理解し参加することで、仲間意識や絆が芽生え、寮への愛着ひいては愛校心を醸成する場としての効果も狙う。

- ・主管部署：教学センター

- ・参考指標：退学率やGPA、入寮者満足度、行事参加人数

### 3) SA制度の拡充

SA制度を優秀で意欲ある学生の成長の機会と位置付け、制度適用者の拡大を図る。他の学生に助言や指導をする経験を通じて、自身を客観的に見つめ成長につなげていくとともに、学生から尊敬される人格を形成する。

- ・主管部署：教学センター

- ・参考指標：参加者数

#### 4) 工作センターやクラフトハウスの有効活用、情報通信領域への対応

知識・技術の修得に留まらず、学生がそれらを応用して実践的に学ぶ環境を推進するため、フィールドワークの充実と共に、学生が推進する自主的なプロジェクトと、工作センターやクラフトハウスの連携を強める。その際には、情報通信領域を含む、デジタル分野のものづくりも対象に考える。

- ・主管部署：教学センター
- ・参考指標：利用者数

#### 5) 長期休暇の有効な活用

120分授業の導入により授業期間以外の時間が拡大するため、学生が英語力を高めるとともに、学生が授業で学んだ知識・技術を応用して実践的に学ぶ活動を充実させ、実体験を通して成長する期間となるよう、教養特別科目のプログラム数増加を図ると共に、学生のニーズとプログラムの積極的なマッチングを推進する。

- ・主管部署：教学センター

### 4. めげずに継続して学修できる教育環境の整備

#### 1) 退学者の抑制

補習授業の実施や再試験制度を継続して、諦めずに学修する機会提供を確保するとともに、SAやPD制度を有効に組み合わせる。退学に至った個別要因の把握・検証を不断に行い、更なる改善策を検討する。

- ・主管部署：教学センター
- ・重要指標：退学率3%以下の維持

#### 2) 留年しても学習意欲を維持できる仕組みづくり

継続的に長期欠席者や成績不振者には、きめ細かく対応する。また、留年しても諦めずに学修する機会提供を行うこと及び将来に向けた準備学修が行えるよう配慮するため、一定要件で次学年の科目履修を許可する「特別履修制度」を継続していく。また、留年生に限らず学生相談やカウンセリングといった学生生活支援の体制を強化する。

- ・主管部署：教学センター
- ・参考指標：留年率、特別履修制度の利用者数

#### 3) 授業科目毎の取組み強化

授業を教員や学生、学生同士が相互に刺激を与えながら知的に成長する場とする。また、各授業科目では、学生に対する到達目標や水準、身に付けるべき能力などをより具体的に明示することで、個々の授業科目の位置付けを理解しながら体系的に学ぶ環境をより強固にする。

- ・主管部署：教学センター

- ・重要指標：科目合格率 85%以上の維持

#### 4) 学生サポートセンターの機能強化

学生サポートセンターの使命や役割を明確化する。教科を担当している教員や、授業への出欠状況を把握している事務部署とも連携して、学力不足気味の学生や、授業の出席が困難になっている学生をいち早く発見し、フォローに努める。

- ・主管部署：教学センター
- ・参考指標：利用者数、利用者のその後

### 5. 学修成果の可視化

#### 1) 学習意欲、満足度の把握と改善に向けた取組み

学生生活アンケート、授業アンケート及び卒業時アンケートなどの各種アンケートについては、学生の学習意欲や満足度、卒業時の成長度合を把握・検証するために継続的に実施し、それらを活用した不断の教育改革を行う。また、特に学生と直接の対話を通して意見を収集する取組みを重点化すると共に、社会人や卒業生への対話機会も設定し、きめの細かい情報収集とそれに基づく改善活動を推進する。

- ・主管部署：教学センター
- ・参考指標：授業満足度、DP 達成度

#### 2) ルーブリック評価も含めたディプロマ・サプリメントの構築

基礎能力ルーブリックやディプロマ・ポリシーと科目の講義内容との紐づけを実施する。また、TOEIC スコアや課外活動なども記録して大学生活を総合的に評価、可視化するディプロマ・サプリメントの仕組みを構築する。

- ・主管部署：教学センター

#### 3) 標準年限での卒業を推進させる取組

学修成果を可視化して課題の所在を常に明らかにしつつ、自ら学ぶ習慣を身に付けた自律的な学修者の育成を図る。不断の教育改革を行うと共に、標準年限で卒業する学生の割合を高める。

- ・主管部署：教学センター
- ・重要指標：修業年限卒業率 85%以上

### 6. 時代の変化を先取りする教育体制の構築

#### 1) 120 分授業の導入と定着

120 分授業は国内でもまだ導入例が少なく、当面は試行錯誤することになるが、重点的に教員及び学生に対する効果の検証を行い、全国的に先駆けた仕組みをいち早く定着させ、高い教育効果を実現する。

- ・主管部署：教学センター

## 2) 全ての学部学科を検討に含む改組改編

2019年度で完成年度を迎えた工学部改組の成果を総括し、さらに教育効果の高い組織づくりを検討する。また、Society5.0時代、AI時代にあるべき工業大学の姿を想定し、全学的な改組改編の検討を進める。

・主管部署：総務部

## 3) 非常勤教員へのFD

専任教員のFD活動はFDフォーラムの開催やニュースレターの発行、授業公開など様々な活動が定着し、高い成果を挙げている。今後は、非常勤教員にも本学の教育方針や科目運営方針の浸透を図るとともに、120分授業の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、FD活動への参加を促すとともに、改善を求める仕組みを構築する。

・主管部署：教学センター

## II. 大学院・研究

### 1. 大学院進学促進

#### 1) 優秀な学生のモチベーションの向上

学部の学生に対して、入学時から大学院進学への動機づけを行う。授業や研究室での指導においても、大学院進学への必要性を理解させる。特色ある研究の柱を打ち出し、英語によるカリキュラムを充実させ、海外から優秀な学生を獲得する。

・主管部署：教学センター

・重要指標：大学院進学率 20%

・参考指標：大学院進学者の卒業時 GPA

### 2. 高度な技術者養成の体制づくり

#### 1) 教育課程の体系化とその定着

2016年度の工学部改組に対応するべく、大学院工学研究科の改編を行ったことに伴い、新課程においては、より体系的で順次性のある教育課程に組み替えるため、基礎科目分野、専門コア科目分野、実践科目分野、総合科目分野に再編成をしている。まずはその効果検証を徹底して行い、次の教育改革に繋げる。

・主管部署：教学センター

・参考指標：進路決定率、優良企業就職者数

#### 2) 副専攻制度の浸透

オープンイノベーションを推進させるため大学院工学研究科の改編時に副専攻制度を導入した。その効果検証を徹底して行い、より有益な副専攻コースの設計に取り組む。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：コース修了者数

### 3. 研究センターの中期的な取り組み

- ・ いずれも主管部署：総務部

#### 未来ロボット技術研究センター（fuRo）

パナソニックをはじめとした企業との共同研究や技術移転による製品化を進めていく。災害対応ロボットや搭乗型・知能ロボットなど、先進ロボットの開発・研究を進めるとともに研究成果の広報に努める。

#### 惑星探査研究センター（PERC）

「はやぶさ 2」など惑星探査プロジェクトに継続して参画し、観測機器開発やデータ解析を推進するとともに、独自開発するロケットを用いるなどして地下から成層圏さらには深宇宙における生命の起源と進化に関する独自の研究を行い、その啓蒙活動を実施する。

#### 人工知能・ソフトウェア技術研究センター（STAIR Lab）

人工知能やソフトウェア技術の研究を産業技術総合研究所や理化学研究所などの有力な研究機関等と産官学連携をとりつつ進め、成果の社会実装を企業と協力して行うことを目指す。

#### 国際金融研究センター（GiFr）

ファイナンスが 21 世紀の経済社会に果たすべき役割を探求し、PE（プライベート・エクイティ）等拡大が期待される分野に関する調査研究成果の発信を進める。また、EBPM の推進、日本の政策の高度化等についての調査研究及び啓蒙を行う。

#### 次世代海洋資源研究センター（ORCeNG）

レアアース泥をはじめとした海底鉱物資源の成因解明や、世界初の海洋資源開発実現に向けた探査・揚鉱・選鉱・製錬などの技術の確立を目指した研究を推進する。また、世界最先端の分析拠点を目指した化学分析設備の整備を進める。

#### 地球学研究センター（Geo-Cosmo Inst.）

考古学遺物や気候変動の史料の化学分析など科学的アプローチに基づき、古代文明の始まりや進化に関する研究を推進する。また、考古学研究分野との協力体制を構築する。

### 4. 「研究体制整備に係る計画」の実行

#### 1) 多様な人材の活用による研究体制の整備

2019 年 9 月に策定した「研究体制整備に係る計画について」の実現を図る。

- ・ 主管部署：教学センター

・重要指標：女性研究者比率 15%以上、女性役職教員比率 15%以上、若手研究者比率 15%以上

## 2) 事務局の支援能力強化

専門人材の活用による共同研究や受託研究の獲得強化を目指し、リサーチアドミニストレーター (URA) や産学連携コーディネーター等の育成や採用を検討する。また、研究マネジメント人材養成に係る SD を実施する。

・主管部署：教学センター

## 3) リスクマネジメント体制の構築

教員への普及啓発活動によって、リスクマネジメントに関する理解を深める。安全保障貿易管理や利益相反マネジメント、技術流出防止マネジメントなどを実践するリスクマネジメント人材を確保する。

・主管部署：教学センター

# 5. 「産学連携に関する目標・計画」の実行

## 1) 外部資金の獲得

外部資金に関する情報提供の充実を図るとともに、各種申請書作成のための支援体制を強化する。また、獲得額の実績において学部学科の偏りを解消する。

・主管部署：教学センター

・重要指標：全ての学科、研究所ごとに年間 1000 万円以上

## 2) 論文発表の活性化、質の向上

文部科学省科学技術・学術政策研究所のサイエンスマップの掲載基準を満たす論文発表数を確保する。また、本学の強みである各分野では高被引用度論文を生産する。

・主管部署：教学センター

・重要指標：5年間で 1000 件、重点分野でトップ 10%論文 1 件以上

## 3) 知的財産の創造と活用

知的財産マネジメント人材を確保し、技術移転に関するノウハウを学内に蓄積する。企業との共同研究や受託研究、大学発のベンチャー企業の実立など、様々な産学連携の手段を踏まえ、社会実装を視野に入れた産学連携戦略を実践する。

・主管部署：教学センター



### Ⅲ. 学生募集・広報

#### 1. 基礎学力を担保した、高い入学志願者競争力の維持・拡大

##### 1) 入試志願者数の維持・増加につながる入試制度の確立

2020年度から始まる新しい入試制度のルールに則り、できる限り受験生の目線に立った入試制度を構築する。その年の受験環境に合った入試広報戦略を考え、それを確実に実行することにより18歳人口が減少する中でも入試志願者維持・増加につなげる。

主管部署：入試広報部

参考指標：オープンキャンパス来場者数、志願者数、推薦一般比率

##### 2) 国の方針に合わせた入学者選抜の検討

政府の「AI戦略2019」に合わせ、「数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得できると考えられる入学者を選抜する」入試の実施を検討する。

・主管部署：入試広報部

##### 3) ステークホルダーごとの広報活動を展開

受験生だけでなく、高校教員や保護者、一般層などステークホルダーごとに最も効果的な広報活動を展開していく。

・主管部署：入試広報部

##### 4) 高大連携を活かした志願者の確保

高校や高等専門学校との協定の締結を積極的に進めている中、それらの学校と入試でも連携し、質の高い学生や意識の高い学生の確保につなげる。

・主管部署：入試広報部

#### 2. 高い研究力や教育力を活かしたブランド力の向上

##### 1) 研究センターの研究成果を活かしたブランド作り

本学の特徴であり強みでもある6つの研究センターの研究成果を積極的に発信する。また、人工知能、ロボット、IoTなど世の中で注目されている動きと本学の研究成果をうまくシンクロさせ、最先端の研究に取り組む大学というイメージを醸成する。

・主管部署：入試広報部

・参考指標：イベント実施数等

##### 2) 創立80周年を見据え、ブランディング構築計画に基づいた情報発信

創立80周年に向け、ブランディング構築のための計画的な情報発信を展開する。先進的な教育の取り組みや世界レベルの研究成果など、本学の先端研究の特色を存分に発信する一方、学部教育で展開しているさまざまな教育的施策や安定した良好な就職状況などを立体的な見せ方として発信していく。

・主管部署：入試広報部

## IV. キャリア教育・就職支援

### 1. 質の高い進路の実現

#### 1) 教職員が連携した就職支援の強化

学生が豊かで幸せな人生を歩めるよう、就職先の確保は本学にとって最重要課題の一つであるとの認識を持ち、教職員はもとより同窓会や産官学連携協議会とも連携して就職支援に取り組む。「出口を制する者が入口を制する」と言われるように、学生の進路先を確保できる大学が社会からの信頼を獲得し、それが入学志願者の動向にも反映されるという関係性を全ての教職員が理解する。

- ・ 主管部署：就職・進路支援部
- ・ 参考指標：進路決定率、進路満足率

#### 2) 優良企業への就職率の向上

卒業生全体の就職率を高めるとともに、優良な企業と関係を構築して就職実績を増やす。前向きで意識が高い学生を早期に把握し、インターンシップや各種のプログラムへの参加を促して各業界を牽引する企業に通用する実力を身に付けさせる。このような企業は大学院生を積極採用する傾向にあるため、大学院進学者数の増加のための施策及び大学院教育への支援を強化する。

- ・ 主管部署：就職・進路支援部
- ・ 重要指標：優良企業就職率、上場企業への就職率 5%上昇
- ・ 参考指標：公務員試験合格者数

#### 3) 増加する留学生への対応

本学が積極的に受け入れている発展途上国や新興国からの留学生の進路ニーズは様々であるため、学生たちの希望を把握し、適切な進路指導に努める。日本で就職する場合は、日本語能力をさらに磨きをかけることが必要である。また組織文化や生活文化への理解が必要であり、そうした指導にも取り組む。部署横断的な就職支援イベントや留学生対象の合同企業説明会の実施等、より直接的で密に支援する。

- ・ 主管部署：就職・進路支援部

### 2. 雇用される能力（エンプロイアビリティ）の獲得

#### 1) 長期休暇も活かしたインターンシップの支援強化

教養特別科目として単位認定を実施しているインターンシップは学生の関心が高く、多くの参加者を得ているところ、2020年度からは長期休暇の期間が延びるため、さらに参加しやすい環境となる。インターンシップや単位認定の制度利用者を増やし、インターンシップからの採用ルートに多くの学生が乗れるように支援を強化する。

- ・ 主管部署：就職・進路支援部

- ・参考指標：参加者数、参加者の進路決定率

## 2) ジョブ型雇用、通年採用への対応

新卒一括採用や年功序列といった、従来の日本の労働慣行が薄れる一方で、欧米で一般的な業務内容を予め定めるジョブ型採用や、入社時期を問わず必要な時期に必要な人材を確保する通年採用が拡大しており、そうした環境変化への組織対応や学生への啓蒙活動に努める。雇用の流動化が進展する環境において、安心して進路選択をできるような環境を整備する。

- ・主管部署：就職・進路支援部
- ・参考指標：進路決定率、転職率

## V. グローバル化

### 1. 世界に貢献する千葉工業大学

#### 1) 発展途上国や、発展途上国の大学との関係強化

日本からの支援を必要とする発展途上国や、それらの国の大学との関係を強化し、留学生の受け入れや教育研究ノウハウの提供に努める。本学で学んだ若く有能な人材が日本や母国で活躍するとともに、親日家として日本と母国との懸け橋になるよう、人材育成に力を入れる。

- ・主管部署：教学センター
- ・参考指標：発展途上国の協定校数、交流人材数

#### 2) 英語のみで修了可能な教育課程の構築

大学院修士課程においては全専攻で英語による授業科目のみで修了可能な教育プログラムを整備しており、これらの円滑な運用を進める。

- ・主管部署：教学センター
- ・参考指標：制度利用者数

### 2. 国際社会で物怖じしない日本人の育成

#### 1) 国際社会で活躍するグローバル人材の育成

国際社会で活躍する技術者を育成するため、広く世界に知識を求める好奇心と英語力を持つ人材を育成する。国内外で外国人と交流する機会を増やし、日本と世界を客観的に理解するために、海外の大学や現地企業と連携した、海外語学研修や異文化体験、海外インターンシッププログラム及び学内における国際交流を拡充する。また、留学生と日本人学生が共に学ぶ正規授業や海外の大学とのダブルディグリープログラムを積極的に開設する。更に、学生の国際会議での発表、学生の国際的なコンテストへの参加などを支援する。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：海外留学者数、協定校数

## 2) TOEIC の効果検証と授業改善の推進

学生が自ら英語の運用能力を把握し、英語学習への動機づけとするため、また就職活動の際に英語力をアピールできるよう、大学が費用を負担して学部の1年生と3年生、大学院修士課程の1年生全員にTOEIC受験を課しており、希望者には更に年6回の受験機会を設けている。全員受験を通して、学生の成長度を可視化するとともに、より良い英語教育の改善に繋げる。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：TOEIC 平均点アップ、TOEIC450 点到達者数アップ

## 3) グローバルラウンジの充実

楽しみながら英語を学ぶ場のみならず、他部署とも連携し、意欲のある学生を見出して、国際インターンなどのフィールドワークに繋げる。また、学生の国際発表などで行っている高度な英語プレゼンテーションのレクチャーも拡大しており、今後もより多くの学生が国際発表などで成果をアウトプットできるよう指導する。グローバルラウンジを国際経験のきっかけに活かし、グローバル人材の養成につなげる。

- ・ 主管部署：教学センター
- ・ 参考指標：利用者数、海外留学者数

# VI. 地域連携

## 1. 地域社会との連携の促進

### 1) 連携協定に基づく活動の活性化

地域が抱える課題解決において、本学が保有する知見を活用し、大学の本務に影響しない範囲で行政機関等に協力する。また、未来の技術者を育てるために小中学生向けの講座等を開設するほか、学習指導要領の改正に伴うICT教育への支援などを実施する。本学学生による教養特別科目のボランティア活動やインターンシップ活動等はその効果を検証し、大学と地域の双方に有益な成果と将来学生が科学技術分野で活躍するために必要な教育効果の両者が得られるように修正と更新を行う。

- ・ 主管部署：教学センター

### 2) 地域連携協議会の開設

地域連携協議会を開設し、協定を締結した市町村との連携を一元化する。地域連携活動は、本学の教育研究活動の成果を生かせる内容となるよう努める。

- ・ 主管部署：教学センター

## **VII. 設備投資**

### **1. 魅力あるキャンパス環境の維持**

#### 1) 教育ニーズに対応した施設への更新

従来の講義式授業に加え、対話型や双方向型など、授業の進め方は多様化している。施設を更新する際は、多様化する授業方式に対応できる施設にしていく。また、学生たちが情報化社会を体感し活用できるよう、大学生活のあらゆる局面での ICT の利用を推進する。

・主管部署：施設部

#### 2) 長期的な視点に立った改修計画に基づく維持・管理

長期的、総合的観点から教育研究活動に適切な施設を維持、活用していく。計画的な修繕や点検保守、省エネに留まらず創エネの活用、バリアフリー化の推進など、先進的な設備更新を実施し、地球温暖化対策への貢献を行いつつ施設マネジメントを実施する。

・主管部署：施設部

#### 3) 耐震化率の引き上げ

国の施策に沿って、現在 98%の耐震化率を 2022 年度末までに 100%へ引き上げることを目指す。既存の建物に耐震化工事を施す選択肢もあるが、基本的には取り壊しの方向で検討する。代替となる建物やその立地は、キャンパス整備の総合的な観点から精査し、建設に着手する。耐震化率 100%の達成により、学生や教職員にとって、更に安心安全なキャンパスが実現するとともに、これまで通り施設設備に関する各種の補助金への応募も可能となる。

・主管部署：施設部

・重要指標：耐震化率 100%

## **VIII. ガバナンス**

### **1. 俊敏な意思決定ができる大学組織の構築とガバナンス改革**

#### 1) 教学マネジメントの構築

建学の精神に基づき、教職協働による学生目線の教育を推進するための管理運営体制を学長のリーダーシップのもとでさらに強化する。体系的で組織的な教育を展開し、成果の点検・評価を IR 情報も活用して実施し、改善につなげる。

・主管部署：教学センター

#### 2) ガバナンス・コードの策定

大学を取り巻く環境が大きく変化する中、教育研究面における内部質保証など、社会からの期待に応える大学改革の推進が重要である一方、大学はその公正性、透明性が求められている。今般制定された「私立大学版 ガバナンス・コード」に基づき、本学として「主

体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤に支えられ、時代の変化に対応した大学づくりを進めること」を目的とした「千葉工業大学版ガバナンス・コード」を策定する。

・主管部署：総務部

## IX. 管理運営

### 1. 持続可能な職場環境の実現

#### 1) 業務のたな卸しと標準化、事務組織の抜本的な見直し

働き方改革は、長時間労働の是正にとどまらず、業務実態の正確な把握と改善活動の持続・定着が重要であるため、業務のたな卸しを行い、業務実態を正確に把握し、必要な仕事と慣例で続けている業務の中で省ける仕事を仕分けする。また、それぞれの業務を部署横断的に関連付け、業務の合理化をはかる。事務システムの統合プロジェクトも踏まえ、事務組織を抜本的に見直す。定型業務は標準化や自動化（RPA）の導入によって負荷を減らすとともに、事務職員は非定型的な業務への対応力を高める。

・主管部署：総務部

#### 2) 人事政策の策定

教員ポイントシステムの定着を図る。教員が自ら自己評価を行い、教育・研究・貢献の各分野でさらに力を発揮できる環境を整備する。また、優秀な教員に対しては、引き続き予算の重点配分や表彰等を行い、授業公開等を通じて全教員の教育力・研究力を向上させる。

・主管部署：大学改革推進室

事務職員については人材育成計画に基づいてSDを実施し、人事評価を行う。現在の総合職に加えて一般職の職位を創設し、給与体系の見直しを実施する。個々の置かれた状況やキャリアに対する考え方に基づき、働き方を選択できる仕組みを整える。仕事と生活の両立を支援し、女性の活躍を促進するとともに障がい者の雇用を進める。

・主管部署：総務部

### 2. 大学の適正規模の追求

#### 1) 組織の簡素化・効率化

AI化などを踏まえ、大学運営にとって適正な職員数（専任・非専任）を模索し、将来を見据えた人事計画を策定する。また、少子化やグローバル化の時流を鑑み、本学に求められる全学的な改組改編とともに、教員配置についても改めて検討する。

・主管部署：総務部

### 3. 安心、安全な環境の構築

#### 1) 情報セキュリティ対策の強化

セキュリティに関する規定やガイドラインを整備し、ユーザーに教育するなど組織的、人的な対策を実施する。学内で取り扱う情報の格付けを行い、機密度に応じて物理的に管理する。また、情報システムの脆弱性の発見に努め、脅威への対策を実施する。

・主管部署：総務部

#### 2) BYOD の推進

学生が保有するスマートフォンやノートパソコンといった情報端末を、大学の学びに活用する仕組みを整える。

・主管部署：総務部

#### 3) 災害等への備え

自然災害や事故が発生した場合、その影響を最小限に抑えて大学運営が継続できるよう、事業継続計画（BCP）を策定する。なお、学生や教職員には、「安全のてびき」及び「防災マニュアル」を周知徹底のうえ、万が一の災害や事故に備えた対処法を身につけさせる。包括的連携協定を結ぶ自治体とは、相互に支援しあえる関係を構築し、地域共生の実現を目指す。

・主管部署：総務部

### 4. 創立 80 周年 [2022 年（令和 4 年）] 記念行事

2022 年 5 月に創立 80 周年を迎える。創立 100 周年に向けた節目の一つとして、教職員のさらなる愛校心の涵養につながる記念式典を企画するとともに、各ステークホルダーやメディアに対して感謝のメッセージを発信する。

・主管部署：総務部

### 5. 外部評価の受審

大学設置基準等の法令に適合していること並びに自主的・自律的な教育の内部質保証を実現するため、自己点検・評価を実施するとともに、適切な外部評価を受審する。2020 年度には、3 度目となる認証評価を受審し、2023 年度にはその中間評価を行い、健全な大学運営に向けた点検のサイクルを自主的に行う。また、経営状況の健全性の評価として、R&I 社による発行体格付を継続する。

・主管部署：総務部

## X. 財政

### 1. 自らの軸足で立つ経営

#### 1) 健全な収支状況の維持

学生生徒等納付金は経営的に最も重要な要素であることから、引き続き在籍者の確保に努める。また、補助金や科学研究費補助金といった外部資金の確保にも積極的に取り組む。経費の効率的な使用や適切な管理を進め、健全な収支状況を維持していく。

- ・ 主管部署：財務部
- ・ 重要指標：経常収支差額比率 5～8%

#### 2) 100周年に向けた財務基盤の構築

キャンパスの再開発が一段落し、大型の投資案件は一巡した。当面は強固な財務基盤の構築を図り、将来的な環境整備に備える。

- ・ 主管部署：財務部
- ・ 参考指標：運用資産余裕比率

## 点検評価

### 1) 理事長・学長による教員や職員への周知

中期計画は、本学が取り組む方向性を示すものであり、理事長・学長のリーダーシップのもとで実現を図る。中期計画に関する教職員及び社会の理解を促進するために、理事長・学長から適宜情報を発信する。

- ・ 主管部署：大学改革推進室

### 2) 評価の実施と柔軟な見直し

中期計画の達成状況は、年度ごとに把握し、全学で共有する。本計画制定時と社会情勢が大きく変化した場合には、適宜中期計画の見直し・改訂を行う。

- ・ 主管部署：大学改革推進室